

鳥海イヌワシみらい館通信

Vol,34 2020年 春号



鳥海イヌワシみらい館
マスコットキャラクター
「ワッシーくん」

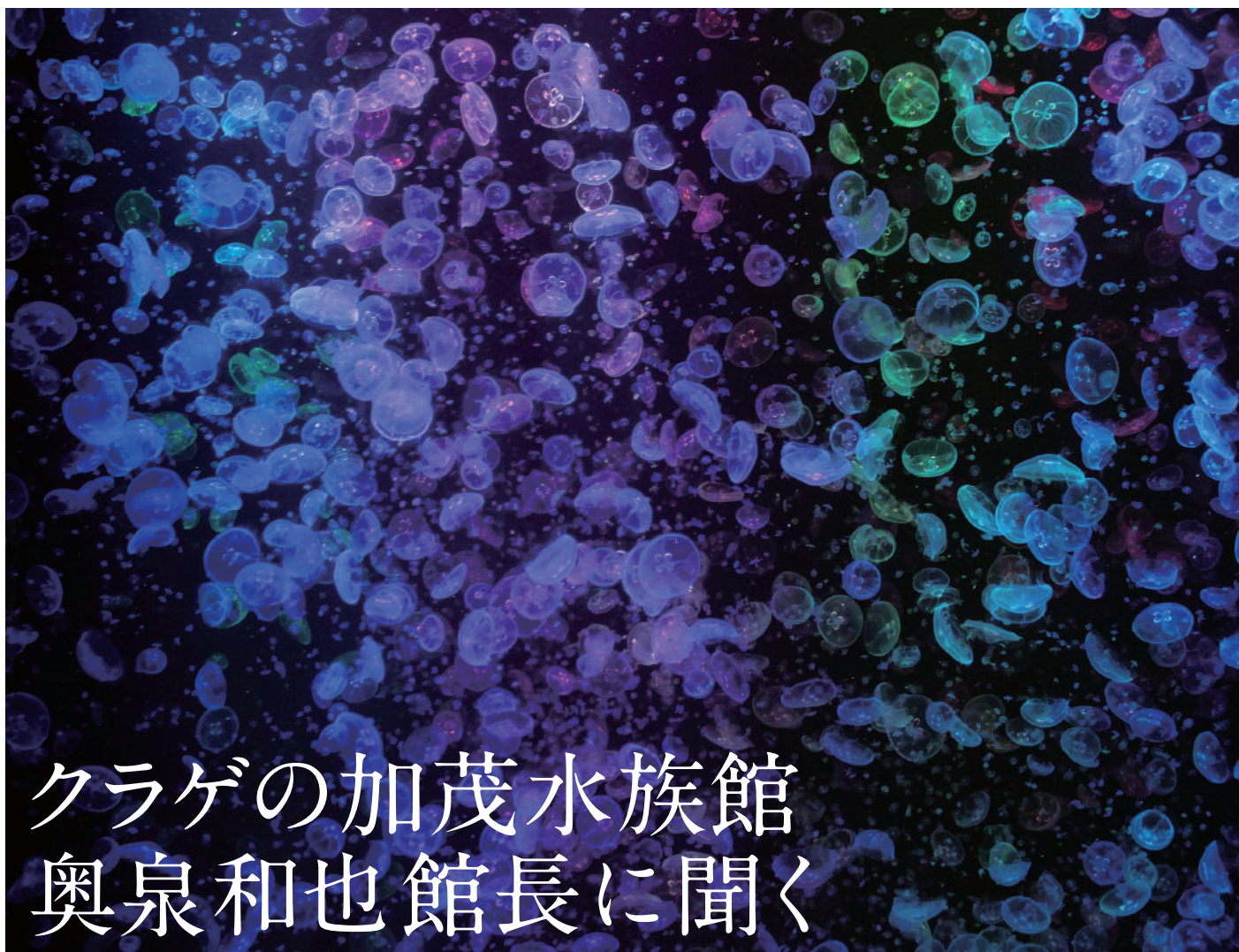


突撃！鳥海イヌワシみらい館⑮ 加茂水族館館長 奥泉和也氏
蜂蜜の森から⑬「ハチ蜜の森体験教室」

「ニシオジロビタキ」撮影：齋藤 修

Interview

突撃! 鳥海イヌワシみらい館 15



水槽の中で泳ぐクラゲ

クラゲの加茂水族館 奥泉和也館長に聞く



クラゲと音楽の融合



奥泉 和也 ● おくいずみ かずや

1964年鶴岡市出身。鶴岡市立加茂水族館館長。副館長を務めていた1997年に展示していたサンゴの中からクラゲを発見し、展示を始めたところ人気を博す。展示クラゲ種数は2000年に日本一、2005年に世界一となる。2008年JAZA「古賀賞」受賞。2014年に施設がリニューアルし、翌2015年より現職。クラゲ大水槽前で行われる音楽イベントでは自らもベーシストとして演奏する。TV番組「情熱大陸」「ガイアの夜明け」など出演多数。

—— 加茂水族館といえば展示クラゲ種数世界一ですが、音楽イベントと生体展示を融合するなど魅力あふれるコンテンツの狙いはどのような所にありますか？

クラゲを見て「美しい」と感じる人もいれば、受け入れられない人もいます。その感情について私は否定しません。「クラゲってきれいでしょ！面白いでしょ！」と押しつけるように訴えても結局受け取る側がどう感じるかです。しかしキャンペーンや音楽イベント、レストランでの様々なクラゲメニューなど五感を使ったコンテンツが触媒になることで誤解や苦手意識が緩和され、それ

ぞれの楽しみ方で気づきや考えるきっかけになればと思います。

—— 水族館がどのようにして社会や環境に貢献できると考えていますか？

展示で使っている水槽は私が考案したオリジナルの水槽で、特許をとらないで公開しています。アメリカやヨーロッパ各国など海外の水族館でも、「OKUIZUMI standard」としてクラゲ水槽が普及しています。いまでこそ他館や世界の水族館との交流がありますが、飼育し始めた当初クラゲ業界は閉鎖的で誰からも教えてもらうことができず大変苦労しました。そんな経験もあり、国内外の飼育員の研修を受け入れて飼育技術を出し惜



2014年6月にリニューアルオープン



屋上を使ったキャンピングイベント



時を忘れてしまいそうなクラゲの動き



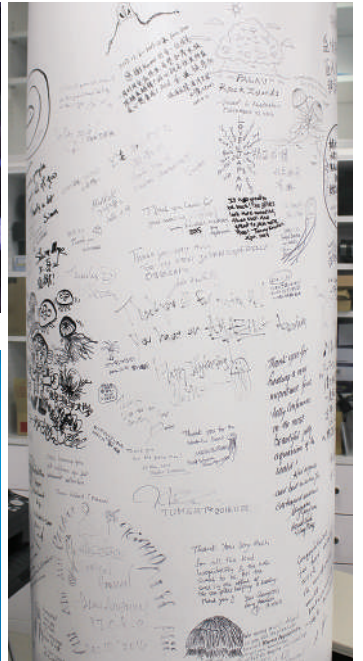
臨場感ある展示風景



アシカショーも大好評



クラゲの採集



世界の水族館飼育員による感謝のメッセージが残された柱

質素な生活に満足できることで、自然環境も改善されていくのでは。

しみせずに教えています。産業の視点では技術流出につながるなど懸念されるかもしれませんが、ほかの水族館がクラゲの展示を継続することで新しい知見が積み重ねられていくこと、業界全体が私たちの技術を使って、または改良を加えてレベルアップを図っていくことこそ、動物園や水族館の明るい未来があります。現在、加茂水族館では50種類以上のクラゲの飼育展示をしており、世界一となっていますが、飼育種数で我々を追い越す水族館も現れるかもしれません。その時は素直に賛辞を贈りたいと思っています。それよりも私たちらしさを貫き通すことこそが最も大事だと考えています。

—— 加茂水族館で来場者が気づかずに見過ごしていそうなものがあれば教えてください。

屋上の芝広場がおすすめです。何とんでも眺めが良い。晴れている日は日本海を眼下に鳥海山が臨めます。地

方博物館としての役割として魚、イソギンチャクなどは全て地元の物を展示しています。メイン展示のクラゲは国内だけでなく海外のクラゲも展示していますが、その9割は施設で繁殖させたものです。海獣類も保護したもの以外は、当施設で繁殖が可能な種を展示しており、自然にインパクトを与えないように配慮をしていますので、そういったところも踏まえて見学していただくと嬉しいです。

—— 私たち人間は、これからどのように生き物や環境と付き合っていくべきでしょうか？

人間は贅沢しすぎています。人間の活動がどれだけ環境問題にインパクトを与えているのか難しい所ですが、加工しやすい石油燃料はマテリアルとして後世にとっておくという感覚で質素に生活すべきです。テクノロジーの進んだ現在は、そうしたマテリアルに頼らなくとも社会は維持できるはずで、海洋生物にもマイクロプラスチック

などによる影響が出てきていますが、必ず人間にブーメランとして戻ってきます。そうならないためにも人間は質素な生活をして満足を得られるようになっていかなければなりません。

—— 来場者、動物や自然を愛する方々に一言お願いします。

クラゲの展示は気合が入っているのでぜひご覧ください。私たちも日本海でクラゲを採集する際、遠くから見てクラゲだと思っていたらビニール袋だったということも良くあります。海でビニール袋が浮いているところは見たくありません。当館のクラゲを見ながら海の環境も考えていただければと思います。

五感で体験することはインターネットが普及した現代でも、VRが当たり前になるであろう未来でも再現できないものです。五感をフルに使って楽しめる加茂水族館は、環境教育の入り口として重要な存在だと感じました。

庄内の動物情報コーナー

世界ではコロナウイルスのパンデミックが宣言され、その出所がコウモリに由来するのではないかと騒がれておりますが、自然界においても大変重要な生態的地位を占める生物ですので、コウモリ=悪者と誤解のないようにお願いいたします。各地の自然情報を moukin@raptor-c.comまでお寄せください。



2020/1/22 「マガモ白変種」酒田市
何百羽もいるマガモの群れの中で一羽たたくも真っ白なカモ。このカモは交雑種なのだろう。数年に一度、白変種が観察されています。
撮影: 土屋和哉様



2020/2/2 「ハジロカイツブリ」酒田市
小さな水鳥ですが、目が赤くて目力があります。涼しい顔をしています。水面下では必死に水を掻いているのです。
撮影: たっちん様



2020/2/11 「ヒシクイ」酒田市
かなりキツ〜く装着された感のある標識。国内でつけられたものではないようですが、固形の食べ物食べにくそうですね。フンガッッフ！
撮影: 中村実様



2020/2/12 「イノシシ足跡」遊佐町
生体の写真は間に合わなかったようですが、林に向かって猪突猛進していった後に残された足跡を撮影。今年は積雪が少なかったから移動も容易なのかも…。これからのシーズンが怖い…。農家の皆さんも注意を！
撮影: 渡会様



2020/3/26 「オオマシコ」酒田市
赤い！3倍速いかといえばそうではないですが、マシコの中でも鮮やかさは別格！ちなみに「マシコ」とはサルの子供という意味。サル=「ましら」の「子」でマシコ。
撮影: とし様



2020/3/27 「カモシカ」酒田市
「ふ〜ん。お前ら自粛してんだってな。俺らみたいに山の中で暮らせば、コロナなんて関係ないぜ！」みたいなニュアンス？
撮影: 池田久浩様



2020/3月 「ギンムクドリ」酒田市
最近、庄内でも観察できるようになった鳥。赤い針のようなくちばしが特徴的です。
撮影: 佐々木真一様



2020/4/7 「サケガシラとウミネコ」酒田市
酒田市の有人離島飛島に打ち上げられた深海魚。リュウグウノツカイのような長い魚です。迷信ですが大きな地震の前触れとされていたようです。亡骸は他の動物の栄養になります。旨いのか？撮影: とし様



2020/2/28 「コミズク」宮城県
こちらも冬限定で観察できるフクロウの仲間。比較的に日中も行動するのでフクロウ好きのバードウォッチャーに人気があります。「観てもいいけど観察場所にごみは捨てないでね！」撮影: 武田永好様

全国の動物情報コーナー

○スタンプラリーの景品が新しく追加されました。

来場者に好評いただいている「館内スタンプラリー」の景品に新しく「ワッシーくんのエコバッグ」が追加されました。2020年7月より有料義務化されるレジ袋を削減するためにも、ぜひ当館でGETしてもらえればと思います。白黒で印刷されているので、小さいお子さんは塗り絵のようにして着色することも可能です。その際は布専用の染色用クレヨンなどを使用してください。このスタンプラリーは館内に隠された5つのスタンプを集めて、ワッシーくんの体を完成させることがミッションです。当館内だけで完結する参加しやすいアトラクションなので、コロナウイルスが沈静化し開館した際にはぜひ参加してみてください。



お世話になりました 村上 絹子 (むらかみ きぬこ)

猛禽類保護センター活用協議会事務局として2002年4月より18年という長い歲月、皆様に支えていただき、おかげさまで無事に3月退職いたしました。

センターに勤務するようになってから、周囲の自然環境にも目を向けるようになりました。今まで見過ごしていた景色や気にも留めなかった野鳥。それが空を見上げるようになり、鳴き声に耳を澄ませます。フクロウの鳴き声もよく聴きます。ある時は3方向から鳴き交わしがあり、3羽の声のトーンの違いに思わず笑ってしまいました。運転中車道を同じ方向に必死に走る動物たちを応援したり、冬は辛いだけだと思っていた雪景色にさえ感動する自分の変化に驚いています。センター勤務は、私の身近な自然環境の楽しみ方を気づかせてくれました。今後ますます楽しみながら、環境にやさしいエコな暮らしを続けていきたいと思えます。

今年センターは20年という節目を迎えます。通信をご覧の皆様、今後とも猛禽類保護センターをどうぞよろしくお願ひいたします。そしてスタッフの皆様の益々のご活躍をお祈り申し上げます。本当にありがとうございました。



着任のご挨拶 酒田市環境衛生課専門員 後藤 啓 (ごとう ひらく)

はじめまして。4月1日から猛禽類保護センター・鳥海イヌワシみらい館にお世話になっております後藤啓(ごとう ひらく)と申します。よろしくお願ひいたします。

前職は、酒田市八幡総合支所に勤務しておりました。鳥海山の雄大な景色に向かって出勤するのはとても気分爽快です。

猛禽類保護センターでは、イヌワシのみならず、猛禽類の保護、啓発活動を行っております。皆さんに少しでも猛禽類のことをご理解いただけるよう、知識を広げていきたいと考えております。

また、猛禽類保護センターにお立ち寄りいただいた際には、「日向里かふえ」、「鳥海高原家族旅行村」、「湯の台温泉鳥海山荘」、「大台野そば」、「手打ちそば鳳来」、「産直らら」などグルメなお店をご利用いただければと思います。さらに、県内でも有数の「玉簾の滝」、「開運出世の滝」もありますので周遊ルートに是非加えていただければ幸いです。

新型コロナウイルス対応で、猛禽類保護センターも臨時休館日が継続しておりますが、皆様方に鳥海山、日向地区の豊かな自然に育まれた猛禽類を紹介していきますのでよろしくお願ひいたします。

山形県猟友会酒田支部でも活動しています！おのれ！小熊め！

ウーガー！はちみつよこすんじや〜！





蜂蜜の森から

第13回「ハチ蜜の森体験教室」

山形県朝日町で蜜ろうそくの制作を通して、自然のすばらしさを伝えている安藤竜二さんによるコラムのコーナー第13回目です。蜂蜜の森を通して私たちが暮らす環境を見つめなおしてみませんか？



緊張しながらのミツバチ観察会



味わうハチミツのおいしさ

「ミツバチさんから食べ物もおうちも取って安藤さんは悪い。私はハチミツなめない！」ミツバチ観察会に参加していた小学2年生の女の子に怒られたことがありました。「ミツバチの森体験教室」と看板をあげ、ミツバチ観察や蜜ろうそく作り、蜜源の森散策などで子供達の受け入れを始めた30年前のことです。

若い私は、その一言にすっかり意気消沈してしまいました。突き詰めて考えれば、養蜂業者も、蜜ろうそく製造業の私も、消費者のあの女の子さえもないほうがミツバチにも自然にもいいのです。「森と人の距離を縮めたい」「環境学習のお手伝い」などと、純粋な気持ちで始めた体験教室でしたが、いきなり出鼻をくじかれてしまいました。

悩みに悩んだ末に、ついにひらめきました。体験教室名をそれまで使っていた「ミツバチの森体験教室」から「ハチ蜜の森体験教室」に変えてみたのです。すると、私の伝え方も自然と変わっていきました。単に、自然やミツバチに優しくというぼやけたコンセプトではなく、このおいしいハチミツや優しいあかりの蜜

ろうそくは、どうやって私たちの前に現れたのか。人とミツバチや自然との繋がりをたどれる内容にしたのです。秘めたコンセプトは「感謝」でした。

何度か実践しているうちに、子どもと一緒に参加したお母さんから「うちの子は、皿に残ったハチミツをもったいないとぺろぺろなめるようになりました」と手紙をいただきました。なんだか正解をいただいたようでとてもうれしかったです。

今年もハチ蜜の森体験教室で、多くの子供達の笑顔と会えることを楽しみにしています。



安藤竜二（あんどう りゅうじ）
1964年生まれ。養蜂を学んだ後1988年に、日本ではじめての蜜ろうそく製造に着手。ハチ蜜の森キャンドル代表。日本エコミュージアム研会理事。山形県養蜂協会監事。編著『朝日岳山麓養蜂の営み』（朝日町エコミュージアム研究会発行）



Illustrated by Masami Tsuno

©鳥海イヌワシみらい館

普及啓発担当

コロナウイルスが憎い！世界中本当に大変な事態だと思います。私たちにできることは感染しないこと、広げないこと。一日も早く終息に向かうことを願っています。（本）

希少種保護増殖等専門員

コロナで我慢の限界を感じている人もいるかと思いますが。大切な人、家族、他人を思うきっかけにしたい。みんなが支え合えば、まだ辛抱できるかなと信じています。（長）

鳥海南麓自然保護官

コロナのバカー！！（澤）

編集後記&施設情報 鳥海イヌワシみらい館 4月～6月の開館情報

開館時間・・・9：00～16：30

入館料・・・無料

休館日・・・新型コロナウイルス感染拡大防止のため臨時休館中

臨時休館日はホームページにてお知らせします。

ホームページアドレス：<http://www.raptor-c.com/>

[f https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor](https://www.facebook.com/Raptoreagleraptor)

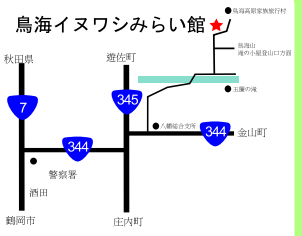
猛禽類保護センター

〒999-8207

山形県酒田市草津湯ノ台71-1

TEL 0234-64-4681 FAX 0234-64-4683

E-mail: moukin@raptor-c.com



鳥海イヌワシみらい館通信
Vol.34 春号

発行：猛禽類保護センター活用協議会
(事務局 鳥海イヌワシみらい館内)